

調査実施概要 (調査元：BuildApp 総合研究所)	
調査期間：2025年3月21日～3月31日	回答数：1,257人
調査対象：全国の20代～70代の建設産業従事者 1,257人	調査方法：インターネット調査(ゼネラルリサーチ株式会社)
都道府県ブロックの内訳	
<ul style="list-style-type: none"> ・北海道 ・東北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県 (6県) ・関東：東京都、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県 (1都6県) ・中部：新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県 (9県) ・近畿：京都府、大阪府、三重県、滋賀県、兵庫県、奈良県、和歌山県 (2府5県) ・中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県 (5県) ・四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県 (4県) ・九州：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県 (8県) 	

【目次】

1. 建設 DX の現状 (単一回答)	2
2. BIM/CIM などのデジタル活用 (複数回答)	3
3. アナログ業務が多く効率化が遅れているプロセス (複数回答)	4
4. BIM の活用シーン (複数回答)	5
5. BIM 活用に期待すること (複数回答)	5
6. デジタル化未対応による仕事の不安 (単一回答)	7
7. 建設産業従事者が誇りに思っていること	7
8. 建設産業従事者が思う「深刻な課題」	9

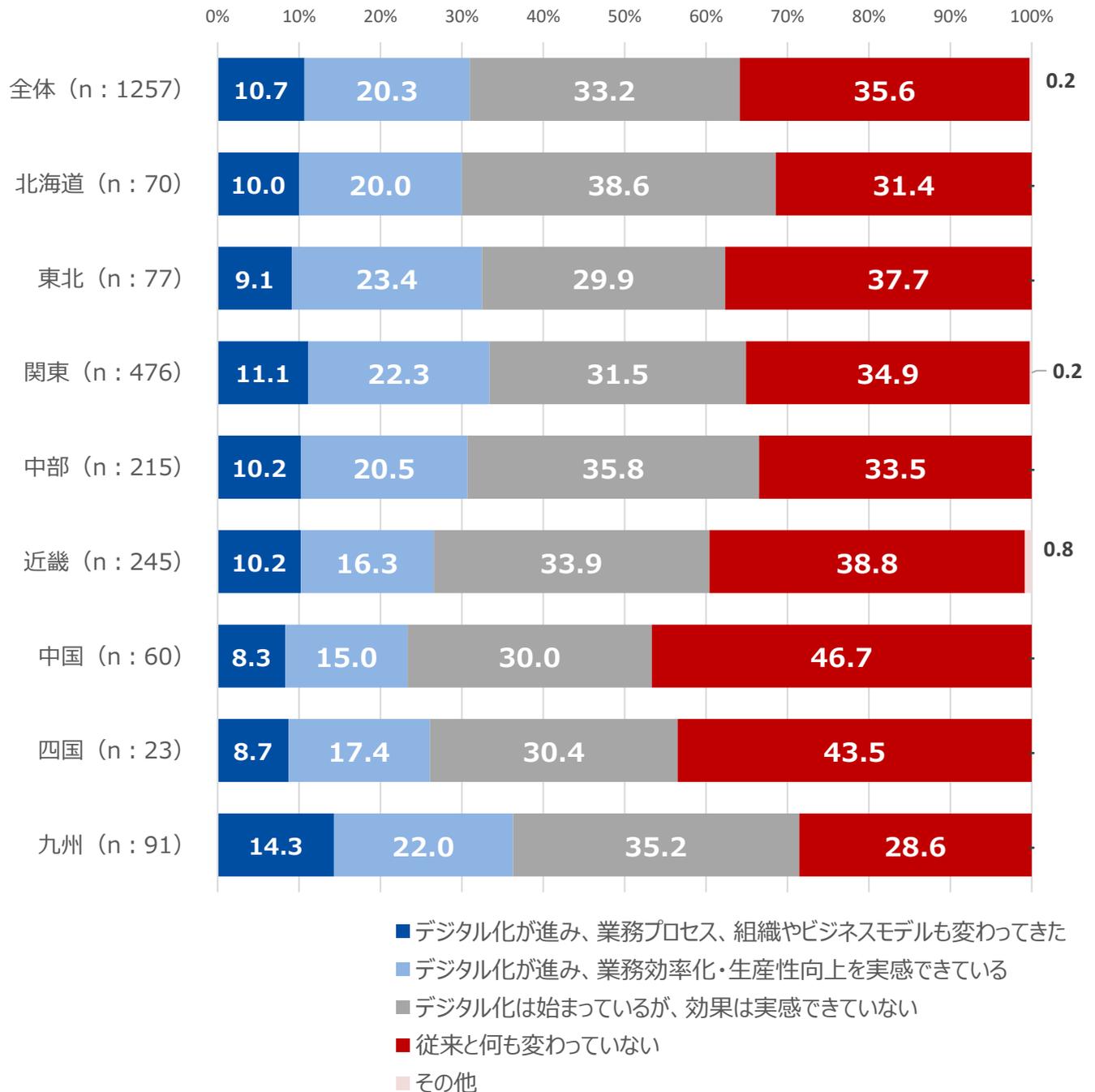
【結果要点】

1. **【建設 DX の現状】**「デジタル化が進み、業務プロセス、組織やビジネスモデルも変わってきた」が最も多いのは九州 (14.3%) で、「従来と何も変わっていない」については、中国 (46.7%) と四国 (43.5%) において回答割合が高い結果でした。
2. **【BIM/CIM などのデジタル活用】**官民で注力する「BIM/CIM」を、省人化・省力化を目的に活用できているとの回答は東北が最多の 26.0% で、「活用できているデジタルツールはない」との回答割合が高かったのは中国 (41.7%) と四国 (39.1%) でした。
3. **【アナログ業務が多く効率化が遅れているプロセス】**各ブロックにおいて「施工管理」「施工・専門工事」が上位を占める傾向にありました。「施工管理」が最多だったのは九州 (39.6%)、「施工・専門工事」が最多だったのは四国 (39.1%) でした。
4. **【BIM の活用シーン】**BIM の活用シーンとして、「施工」との回答割合が特に高かったのは東北 (42.9%) と四国 (43.5%) でした。
5. **【デジタル化未対応による仕事の不安】**「デジタル化に対応できないと将来仕事が減るのでは、という不安がある」との回答が他のブロックに比べて非常に高い結果となったのは、四国 (73.9%) でした。
6. **【建設産業の深刻な課題】**建設産業の「深刻な課題」として、「人手不足」との回答が極めて高かったのは北海道 (74.3%) でした。

1. 建設DXの現状（単一回答）

- 「デジタル化が進み、業務プロセス、組織やビジネスモデルも変わってきた」が最も多いのは九州で、全国の10.7%よりも3.6ポイント高い結果でした。また、九州は、「従来と何も変わっていない」との回答は最も少ない28.6%で、全国の35.6%よりも7ポイント低い結果でした。
- 「従来と何も変わっていない」については、中国（46.7%）と四国（43.5%）において回答割合が高く、特に中国では全国の35.6%よりも11.1ポイントも高い結果でした。

【都道府県ブロック別】建設DXの現状 ※n:1257、単一回答、単位：%

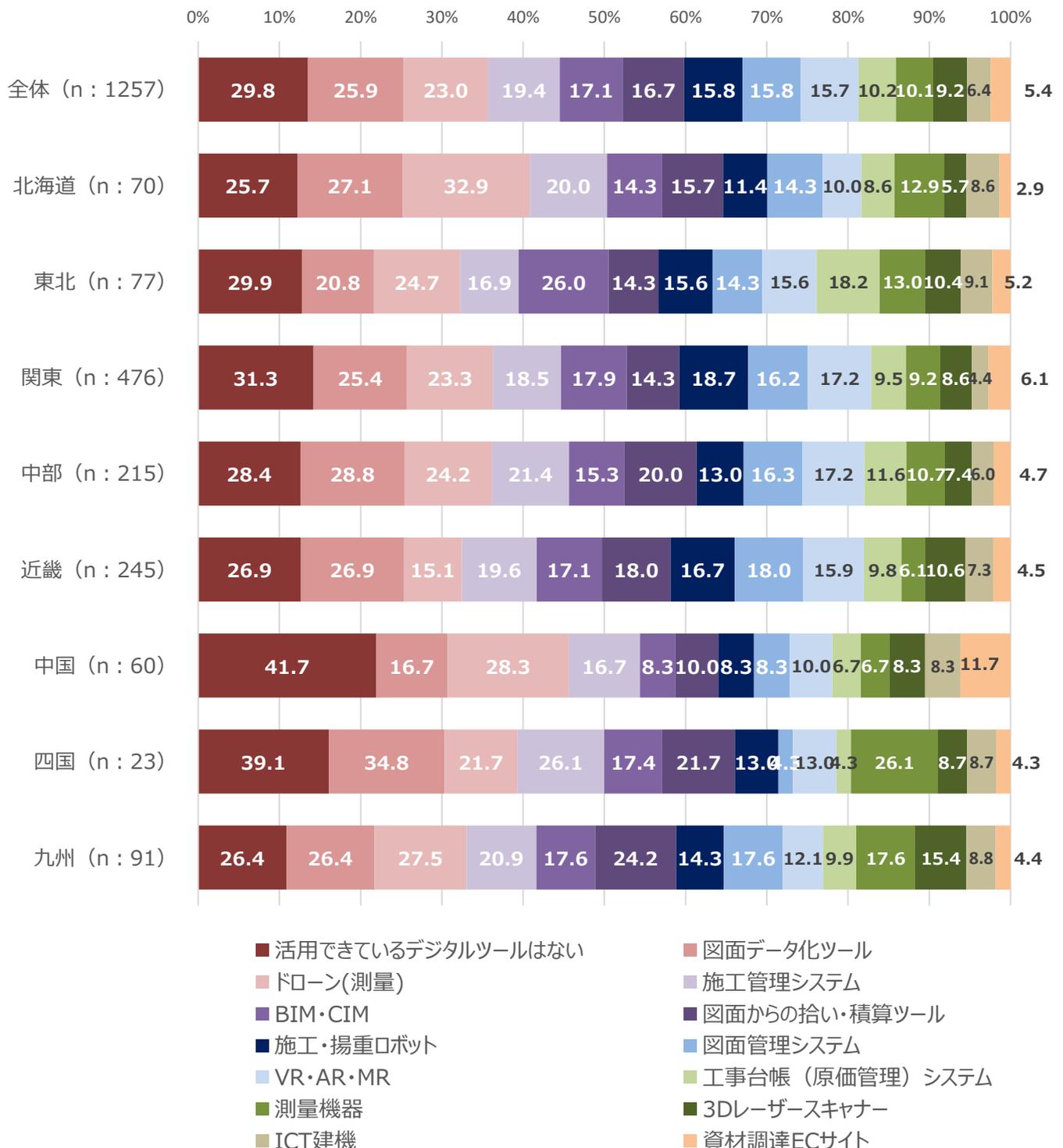


2. BIM/CIM などのデジタル活用（複数回答）

- 「省人化（生産性向上）や省力化（業務効率化）を目的に、活用できているデジタルツールを教えてください（複数回答可）」と質問したところ、官民で注力する「BIM・CIM」との回答は東北が最多の 26.0% でした。
- 建設 DX の現状で「従来と何も変わっていない」との回答割合も高かった中国と四国は、「活用できているデジタルツールはない」との回答割合も高い結果となりました。（中国/41.7%、四国/39.1%）

【都道府県ブロック別】生産性向上を目的に活用できているデジタルツール

※n:1257、複数回答、単位：%

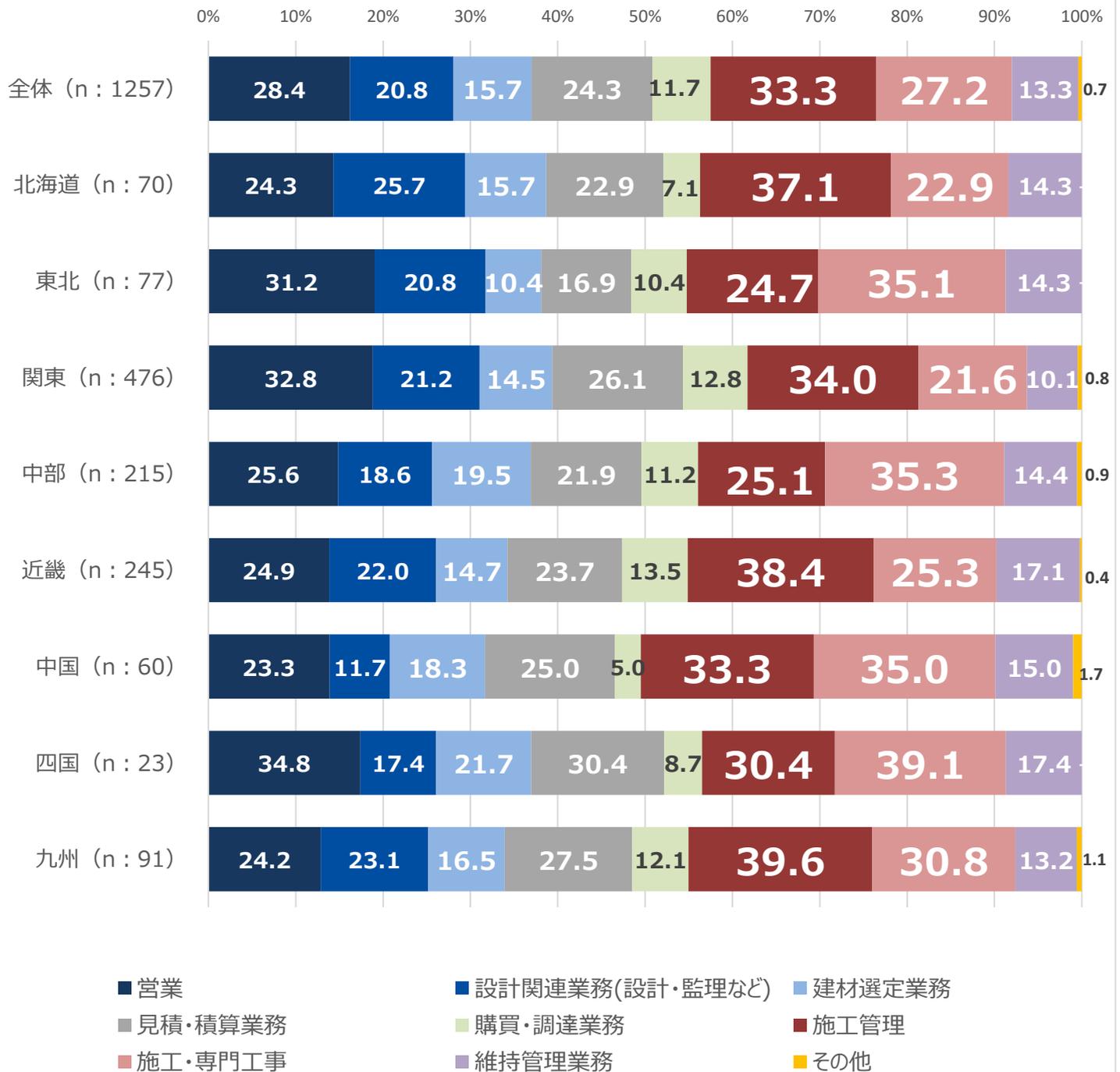


3. アナログ業務が多く効率化が遅れているプロセス（複数回答）

- アナログ業務が多く効率化が遅れているプロセスについて質問したところ、各ブロックにおいて「**施工管理**」「**施工・専門工事**」が上位を占める傾向にありました。
- 「**施工管理**」が1位となったのは、北海道 (37.1%)、関東 (34.0%)、近畿 (38.4%)、九州 (39.6%) でした。
- 「**施工・専門工事**」が1位となったのは、東北 (35.1%)、中部 (35.3%)、中国 (35.0%)、四国 (39.1%) でした。

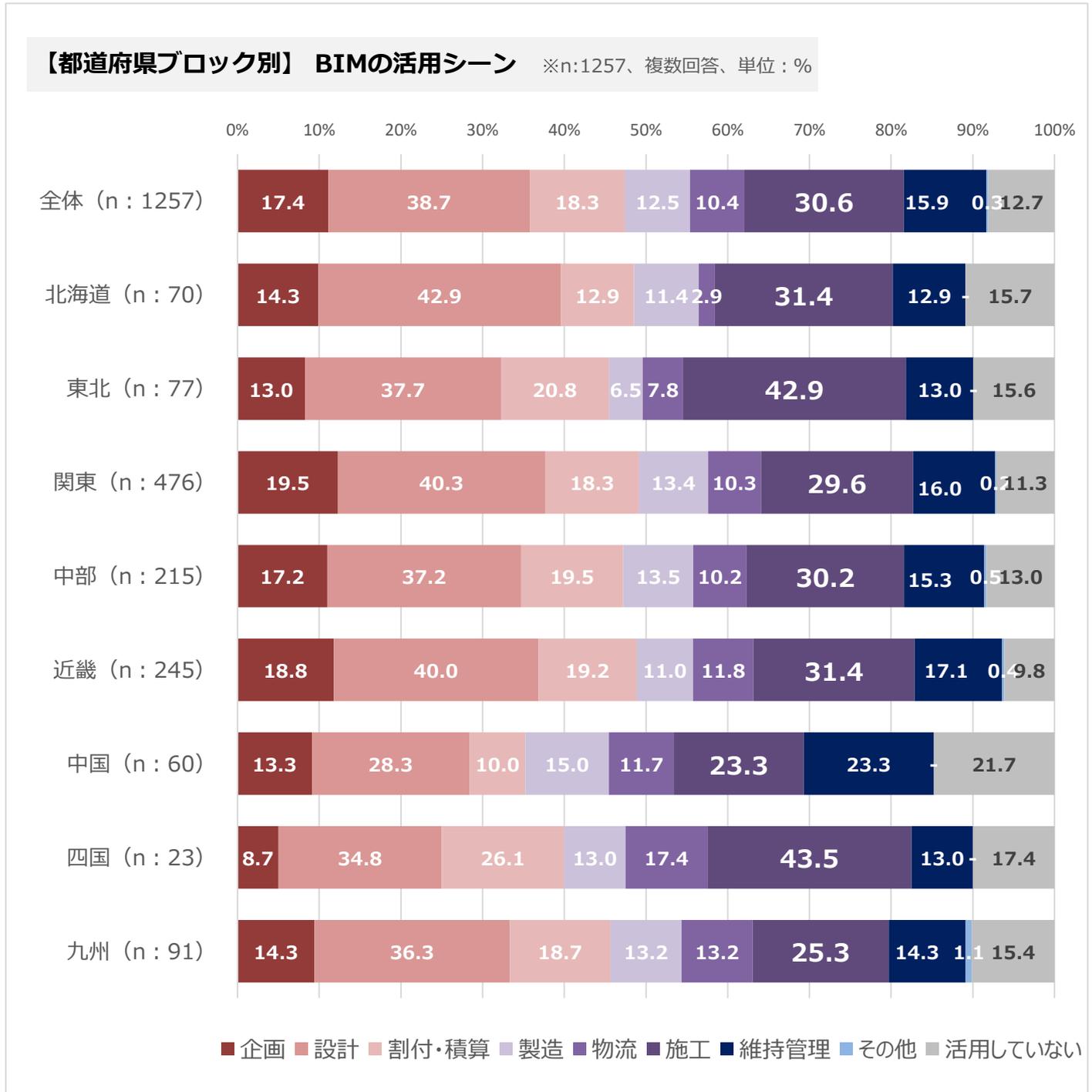
【都道府県ブロック別】アナログ業務が多く生産性向上が遅れているプロセス

※n:1257、複数回答、単位：%



4. BIM の活用シーン（複数回答）

- BIM の活用シーンとして、「施工」との回答割合が特に高かったのは東北（42.9%）と四国（43.5%）でした。
- 中国では、維持管理での BIM 活用が 23.3%で、他のブロックに比べて高い回答割合でした。

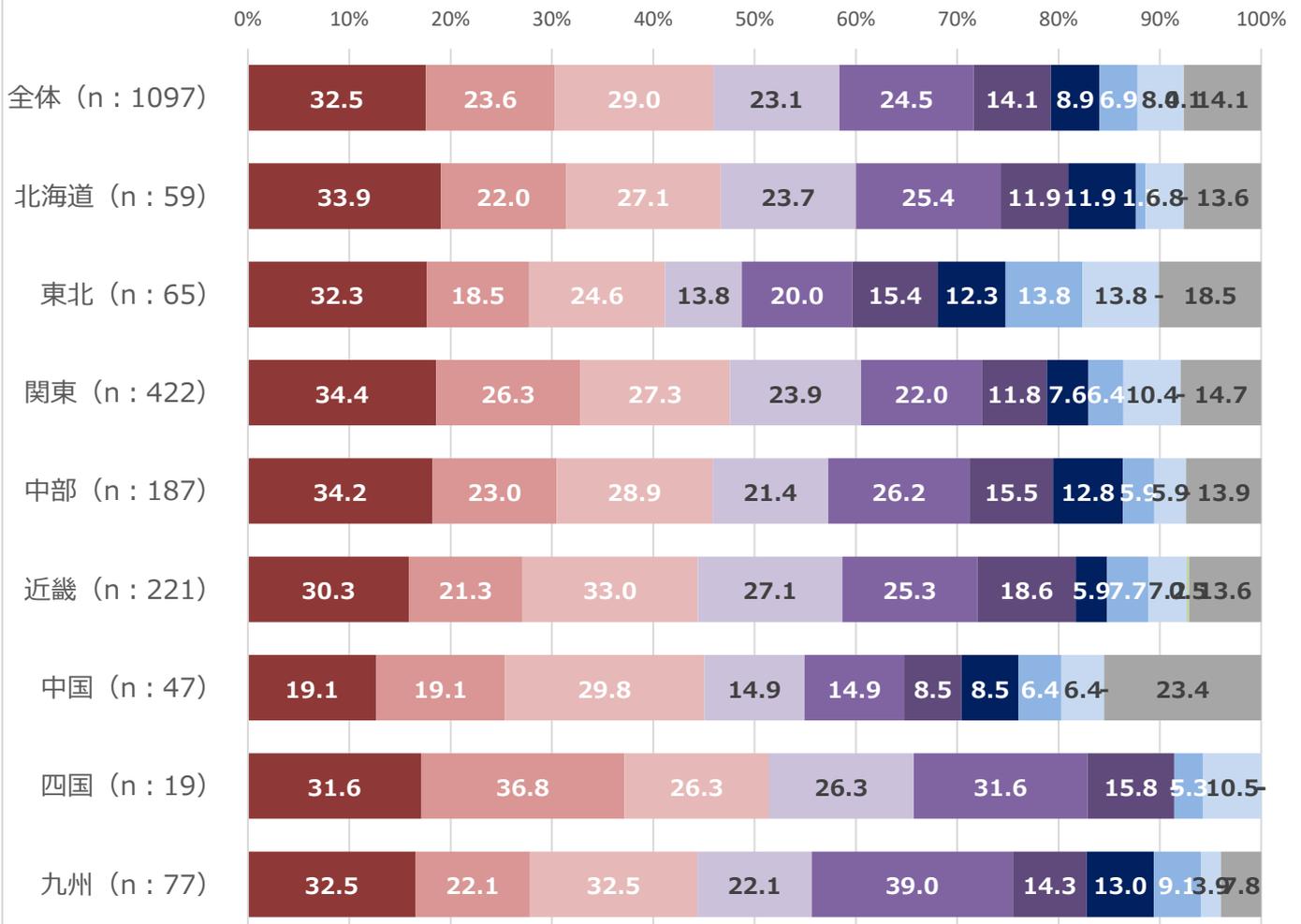


5. BIM 活用に期待すること（複数回答）

- ご自身の会社、業務で BIM を活用していると回答した方を対象に「BIM 活用に期待することを教えてください（最大3つまで）」と質問したところ、「施工段階での手戻りの減少」との回答は近畿（27.1%）、四国（26.3%）で多い結果となりました。近畿と四国では BIM を施工フェーズで活用する割合が高いこととも関連性があると推測できます。
- 東北では「建築プロジェクト内の情報マネジメントが円滑になり、生産性が向上する（13.8%）」との回答が他のブロックに比べて高く、BIM の本質的な効果を実感されている方が多いと推測できます。

- 九州では、「設計・構造・設備を総合的に判断できる (39.0%)」との回答割合が、他のブロックに比べて顕著でした。
- 中国では、そもそも「BIM を活用していない」との回答が 21.7%と他のブロックに比べて高いうえに、会社・業務で BIM を活用している方においても「BIM 活用に期待することはない (23.4%)」との結果となり、総合的に BIM 活用に否定的な意見が多いと推測できます。

【都道府県ブロック別】 BIM活用に期待すること ※n:1097、最大3つ、単位：%



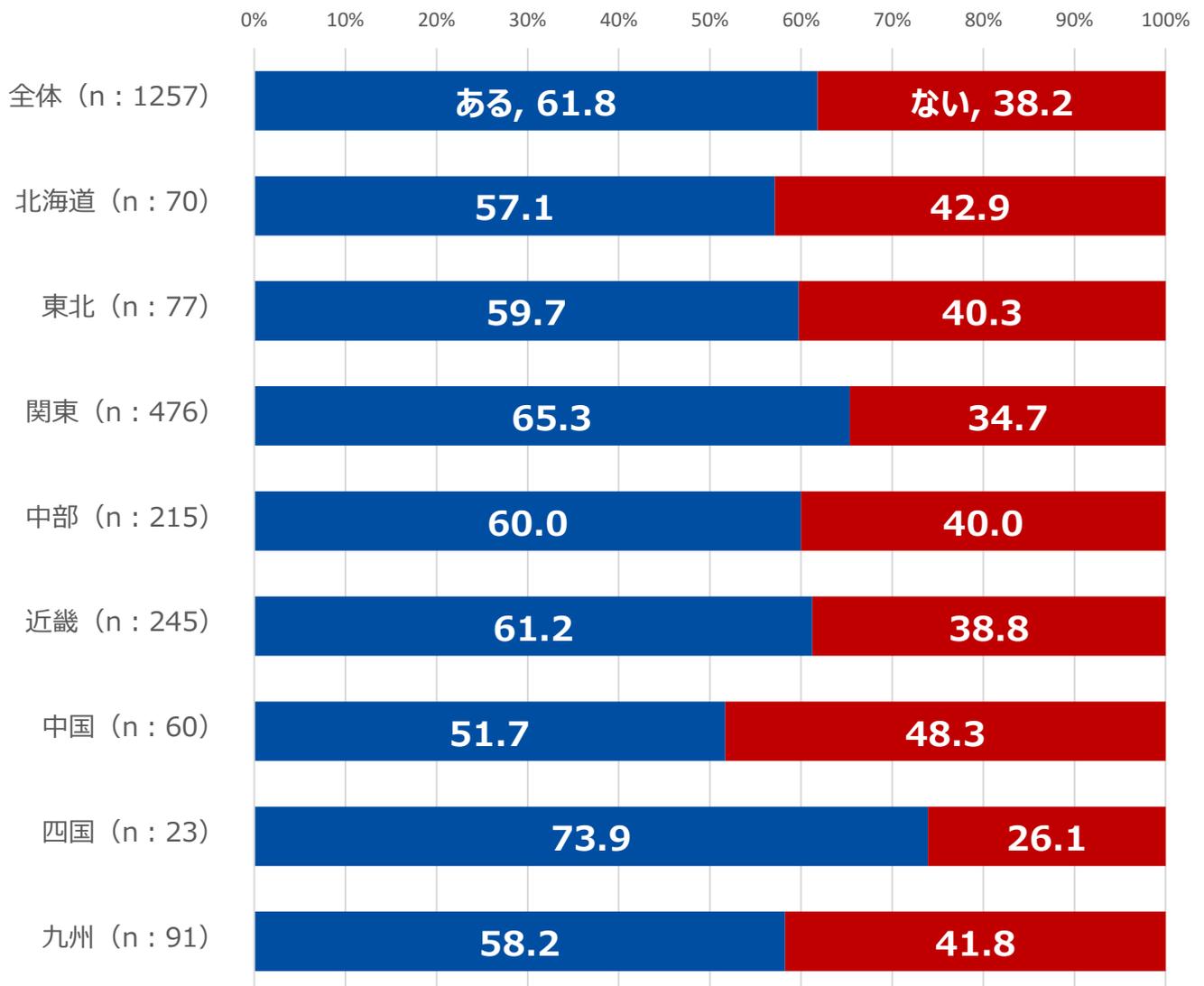
- 省力化 (業務の負担軽減・効率化)
- どこを切った図面でも瞬時に作成・確認できる
- 発注者から技能工まで完成イメージがわかりやすい
- 施工段階での手戻りの減少
- 設計・構造・設備を総合的に判断できる
- 人工の削減 (省人化) ができて人手不足が解消される
- ロボット、ドローン、VRとの連携がしやすくなる
- 建築プロジェクト内の情報マネジメントが円滑になり、生産性が向上する
- 業務プロセスの改善 (仕事の進め方の変更)
- その他
- 期待することはない

6. デジタル化未対応による仕事の不安（単一回答）

- 四国では「デジタル化に対応できないと将来仕事が減るのでは、という不安がある（73.9%）」との回答が他のブロックに比べて非常に高い結果となりました。四国は、「省人化（生産性向上）や省力化（業務効率化）を目的に、活用できているデジタルツールはない（39.1%）」、建設 DX の現状についても「従来と何も変わっていない（43.5%）」との回答結果であったことも踏まえると、デジタル化・建設 DX が進んでいない現状への危機感が強く反映されていると推測できます。

【都道府県ブロック別】デジタル化未対応による仕事の不安

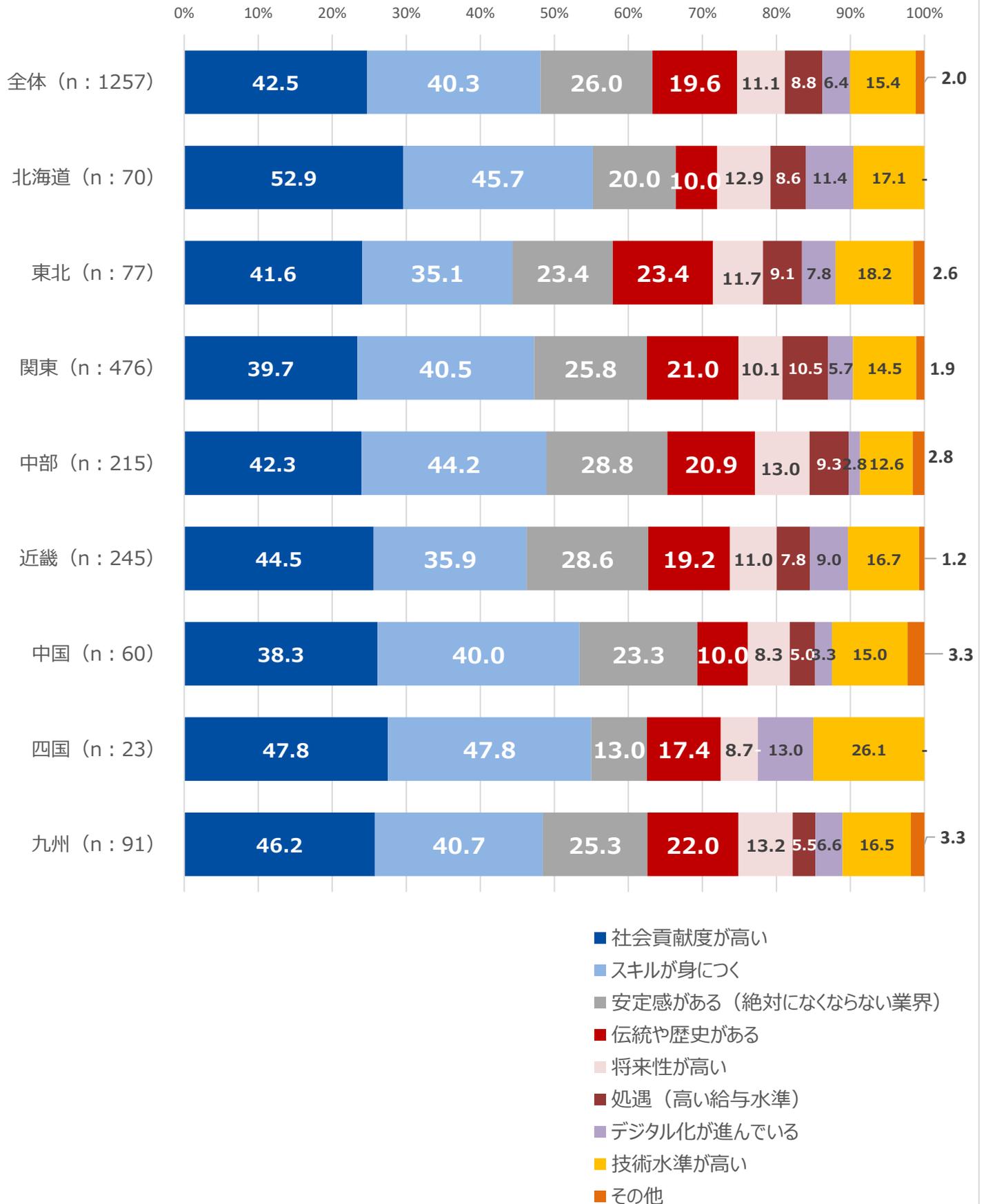
※n:1257、単一回答、単位：%



7. 建設産業従事者が誇りに思っていること

- 北海道では、約半数の方（52.9%）が建設産業は「社会貢献度が高い（42.5%）」ことを誇りに思っているとの結果になりました。
- 四国では、「スキルが身につく（47.8%）」、「技術水準が高い（26.1%）」ことを誇りに思っている方が多く、他のブロックに比べて特徴のある結果となりました。

【都道府県ブロック別】建設産業で誇りに思うこと ※n:1257、複数回答、単位：%

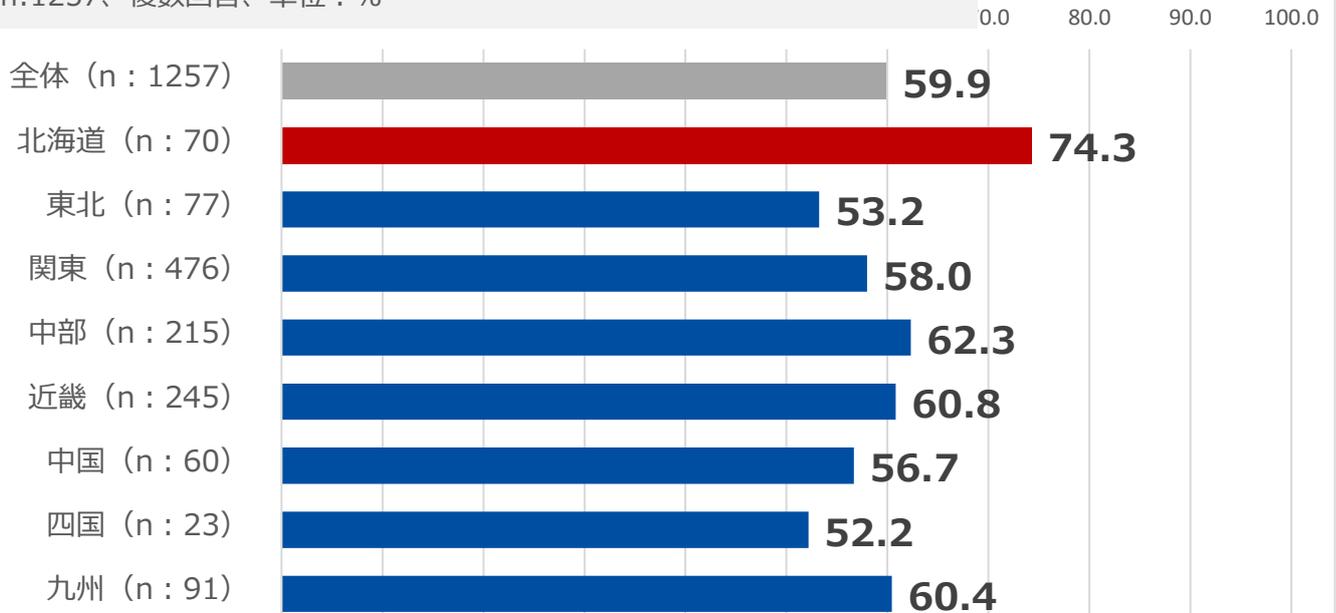


8. 建設産業従事者が思う「深刻な課題」

- 建設産業の「深刻な課題」として、「人手不足」との回答が極めて高かったのは北海道（74.3%）でした。
- 四国では「熟練作業員の技術継承が進んでいない（26.1%）」と他のブロックよりも若干回答割合が高い結果となりました。四国では、「スキルが身につく（47.8%）」、「技術水準が高い（26.1%）」ことを誇りに思っている方が多いとの結果もでていることと関係があるものと推測できます。

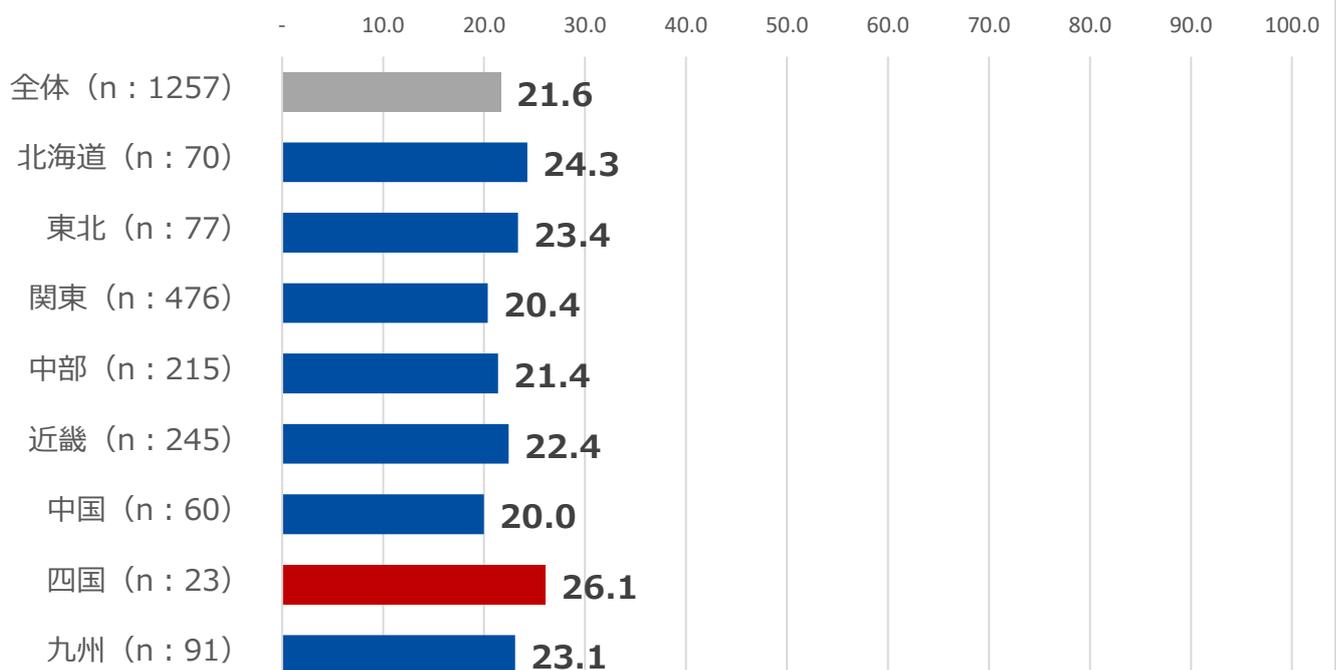
【都道府県ブロック別】建設産業の深刻課題は「人手不足」との回答

※n:1257、複数回答、単位：%

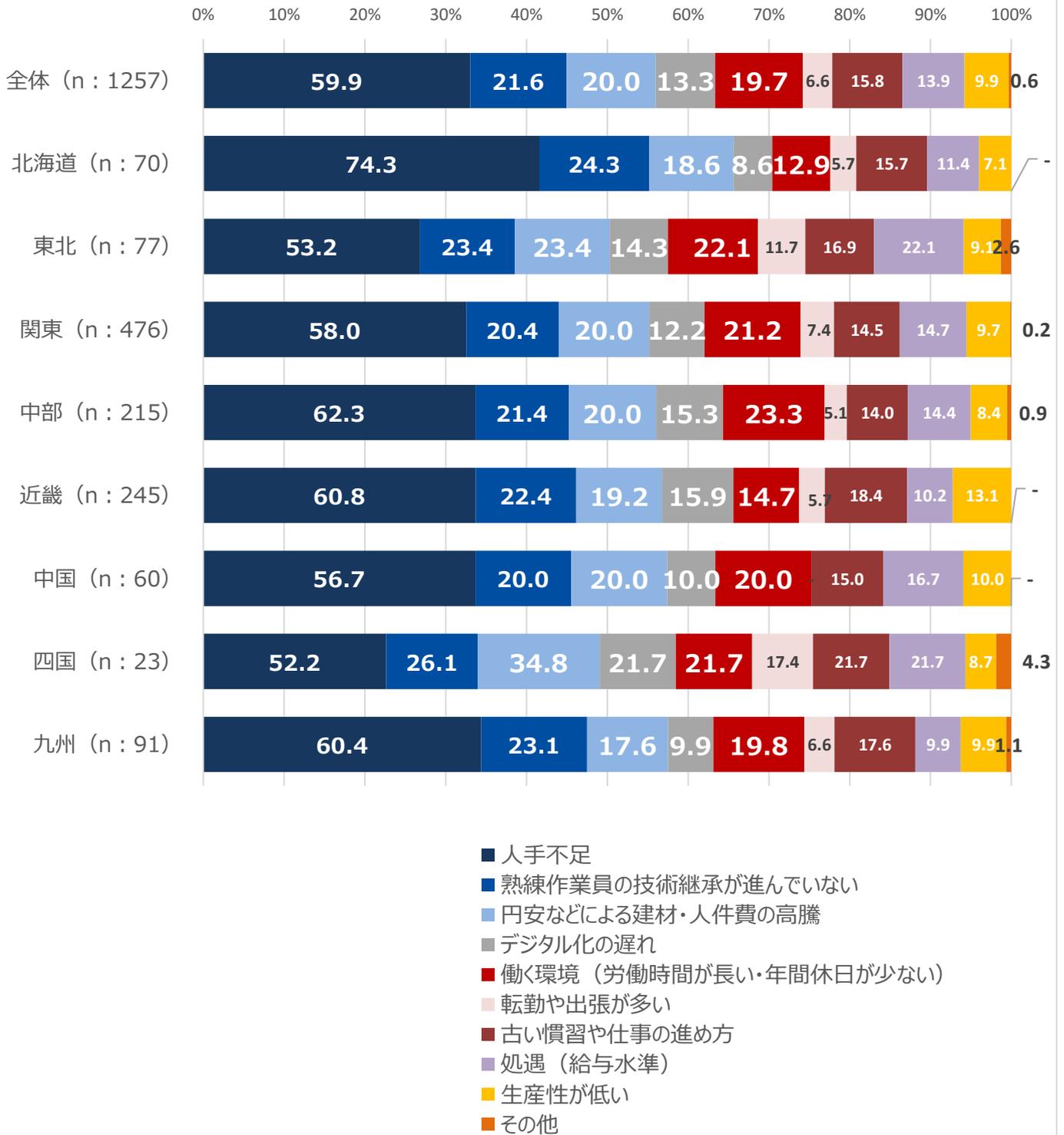


【都道府県ブロック別】建設産業の深刻課題は「技術継承」との回答

※n:1257、複数回答、単位：%



【都道府県ブロック別】建設産業の深刻な課題 ※n:1257、複数回答、単位：%



以上

【本件に関する報道関係者からの問合せ先】

野原グループ株式会社
 マーケティング部 ブランドコミュニケーション課
 担当：齋藤・萩谷
 E-Mail：nhrpreso@nohara-inc.co.jp